



チックシベツ

教育目標

たくましい身体の子
ねばり強く働く子ども
進んで学ぶ子ども

美しく豊かな思いやりのある子ども

秩父別小学校だより 11月2号（令和元年11月21日）【発行責任者 上杉 晃弘】

公開研究会終了

4月から力を入れてきた公開研究会が11月11日（月）に無事終了しました。心配していた天候もあまり崩れることなく、遠くは夕張から、また上川管内からも参加いただきました。合計で39名（中学校・行政等含め）の参加があり、また、保護者の皆様にも授業を見ていただきました。

国語の公開授業を4クラス、道徳とプログラミング教育の公開授業を各1クラスずつ行いました。「主体的・対話的で深い学び」の実現のために研究を進めてきました。これまでの3回の研究授業では、「対話」をうまく行うことができませんでしたでしたが、公開研究会では、4クラス全てが「対話」まで進めることができました。今後は、「対話」の質についての検証と改善を進めることが必要だと感じています。

道徳とプログラミング教育の授業は、情報の発信を主たる目的として公開しました。多くの参観者があり、ねらいは達成されたと思っています。プログラミング教育の授業は北空知新聞にも取り上げられ、来年度の本格実施を迎え、注視される状況にあるようです。

公開研究会の子どもたちへ還元される一番大きなものは、当日の授業だと思っています。日常の授業も工夫はされていますが、公開研究会で行う授業は、深く教材研究をし、時間をかけて指導案を作成しています。授業をする先生は、これまでの苦労が大きいほど授業に「熱」が入ります。子どもたちは、言葉には表せなくてもそれを感じ取ります。家庭の料理に例えるなら、日常出される料理（栄養や量を考え好き嫌いなく工夫された料理）と誕生日のご馳走（腕を振るい、時には新しいメニューに挑戦した料理）のような違いになるでしょうか。当然腕を振ってくれたのは、子どもたちは分かると思います。「熱」の入った授業をすればするほど、子どもたちは担任への信頼を厚くし、それは学級づくりの基盤を厚くしていきます。

子どもたちへ還元される二番目は、研究が深まることです。多くの方に意見をいただくことによって、研究を深めることができます。より良い授業作りに繋がっていきます。対話の質が上がり、深い学びとなればなるほど、子どもたちは他者の有り難みを感じ取ります。それは、互いの価値を認め合うことになり、学級の親和的な関係をより強く醸成することになります。つまり、「より良い授業はより良い学級を創る」ということです。これから研究のまとめになりますが、成果と課題を明確にし、来年度より一層「深い学び」を実現したいと思っています。

二年生～文を正しく並べるための対話



五年生～より良い俳句にするための対話